

# 中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年6月30日現在

## 今月の重点活動

### ■ゆず **かみのほゆず産地戦略会議で「産地方針」推進**

かみのほゆず(株)、生産者代表、関市東商工会、関市、JAめぐみの、県農業経営課、農業普及課からなる「かみのほゆず産地戦略会議」では、関市上之保地区の特産であるゆずの産地振興ビジョン「かみのほゆず産地方針」を昨年度に策定した。

6月29日、今年度第1回目の「かみのほゆず産地戦略会議」を関市東商工会上之保出張所で開催し、今後の「かみのほゆず産地方針」の取り組みについて検討するとともに、出席者それぞれの役割を確認した。

農業普及課では、関係機関と連携を図りながら「かみのほゆず産地方針」に基づき、今年度のゆず産地振興を進めていく。



【産地戦略会議の様子】

(地域支援係)

## 新たなブランドづくり

### ■花き **第2回中濃庁舎フラワーフライデーを開催**

県では、家族や大切な人と過ごす週末の楽しい時間に岐阜の花を添えることにより、県産花きのPR・利用拡大につなげることを目的に、県庁舎内で県産花きの販売を行う“花と帰ろう！「フラワーフライデー」”を実施している。

6月12日、農業普及課が事務局となって「第2回中濃庁舎フラワーフライデー」を開催した。この日は、初夏～秋にかけての寄せ植えやガーデニングに最適なニーレンベルギア(3色)、チョコレートコスモス、エキナセア(4色)を予約販売し、庁舎内各所属のほか庁舎管理会社を含め、多くの職員が計256鉢の花を購入した。

農業普及課では今後も「フラワーフライデー」を計画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている管内の花き生産者を支援していく。



【販売した花苗】

(地域支援係)

### ■さつまいも **生育調査の実施**

「JAめぐみのさつまいも生産組合」では、さつまいもの産地化に取り組んでいる。昨年栽培では、圃場により収量や品質に差がみられ、栽培技術の向上が課題であった。

6月に入り、植付から1か月程度経過したさつまいもの生育調査(葉数、蔓数、病害虫の発生状況等について)と土壌診断用のサンプリングをJA担当者、生産者とともにいった。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携して生育調査及び収量調査を行い、栽培管理と収量・品質との関係を明らかにして、栽培技術の向上のための支援を行っていく。



【生育調査圃場の様子】

(地域支援係)

## 売れるブランドづくり

### ■ 水稲 生育調査を開始

管内水稲の田植えは、4月中旬の「コシヒカリ」から6月中旬の「ハツシモ岐阜SL」まで、天候にも恵まれたことからほぼ順調に終了した。

主な作付品種は「コシヒカリ」と「ハツシモ岐阜SL」のほか「あさひの夢」、「みのにしき」、「あきさかり」等で、これらの中には県下でも有数の水稲採種ほもある。

農業普及課では、JAめぐみの職員と連携して6月12日から月2回（原則1日と15日）、関市と美濃市の24地点で生育調査を実施し、水稲の生育状況を把握して良食味米・高位安定生産、優良種子生産の支援を行う。



【水稲生育調査風景】

(地域支援係)

### ■ さといも 機械化による省力化と品質向上に向けて

農業普及課では、「円空さといも」の機械化一貫体系導入による作業省力化と品質向上を目的に、各種実証試験を行っている。

今年度は、うね内施肥機活用による作業省力化の他、丸芋率向上のための栽培管理実証ほを設置し、生育調査を行っている。

農業普及課では、今後も引き続き生育調査を行うとともに、秋には収量・品質調査を実施するなど、機械化による産地拡大に向けた支援を継続する。



【生育調査の様子】

(地域支援係)

### ■ 中濃夏秋茄子生産出荷組合 出荷目揃会を開催

6月17日、中濃夏秋茄子生産出荷組合の目揃会がJAめぐみの下有知集荷場で開催された。

目揃会は、出荷する前に規格や選別基準等を決めておく事で、品質が確保され消費者に美味しく食べていただく事が出来る。会では、市場や全農岐阜からの情勢報告の後、今季初めて出荷されたなすを確認しながら規格や注意点などが説明された。また、前作の出荷優秀者2名の市場表彰も行われた。

農業普及課からは、この時期の栽培管理や病虫害対策について情報提供を行うとともに、肥料中窒素の循環について説明して硝酸イオン濃度の測定を本年も実施することを生産者へ周知した。今後も、収穫が終わる10月まで、ほ場巡回を中心に栽培支援を実施していく。



【目揃会の様子】

(地域支援係)